

敦賀発電所2号機の原子炉起動と調整運転開始について

当社、敦賀発電所2号機（加圧水型軽水炉：定格出力116万kW）は、平成14年6月11日から第12回定期検査を行ってきましたが、全ての定期検査の作業工程を終了し、7月7日に原子炉を起動、同日中に臨界となる予定です。

その後は諸試験を実施し、7月上旬（7月9日～11日頃^{注1}）に定期検査の最終段階である調整運転を開始し、8月上旬には経済産業省の最終検査を受けて定常運転を開始する予定です。

なお、敦賀発電所2号機は、7月上旬からの調整運転開始より、定格熱出力一定運転^{注2}を実施する予定です。

注1) 調整運転開始日は、タービンバランシング作業（調整運転開始前にタービン発電機の回転数を上昇させてタービン車軸の振動を測定し、振動の状況によっては、タービンの車軸にバランスウエイトを取り付け、振動が小さくなるように調整する作業）の実施の有無により変わります。

注2) 定格熱出力一定運転とは：

定格熱出力一定運転とは、原子炉で発生する熱（原子炉熱出力）を原子炉設置許可で認められた最大値である定格熱出力で一定に保って運転する方法であり、冬季のように海水温度が低い時期には発電効率が良くなり、従来の定格電気出力一定運転に比べ、発生する電気が増加する運転方式です。

以 上

敦賀発電所2号機 第12回定期検査の概要

1. 主要工事等

(1) 湿分分離加熱器伝熱管取替工事（添付資料参照）

蒸気発生器の信頼性向上の観点から、湿分分離加熱器（A・B）第1段の伝熱管を銅系材料のものからステンレス系材料のものに取替えた。これにより蒸気発生器への不純物の持ち込みの低減が図られる。

(2) 定格熱出力一定運転関連工事

定格熱出力一定運転を導入するにあたり、運転管理の信頼性をより一層向上させるため、中央制御室に原子炉熱出力を常時表示する原子炉熱出力表示器を設置した他、運転情報を管理しているコンピューターのソフト改良や発電機出力の監視画面の改良を行った。

2. 燃料集合体検査結果

燃料集合体の外観点検を実施した結果、異常は認められなかった。

燃料集合体全数193体のうち、81体（そのうち80体は新燃料集合体）を取替えた。

3. 蒸気発生器伝熱管の渦流探傷検査結果

伝熱管全数（施栓管を除く）について渦流探傷検査を実施した結果、異常は認められなかった。

4. 定期検査中に発生した人身災害

平成14年6月17日18時35分頃、敦賀発電所2号機の燃料取扱棟において、燃料取替関連作業を実施中の協力会社社員1名が誤って使用済燃料ピットクレーンとピットクレーンのストッパーの間に腹部をはさまれ、約2週間の安静加療を要する人身災害が発生した。

その後、被災者は安静加療後に退院し、職場復帰した。

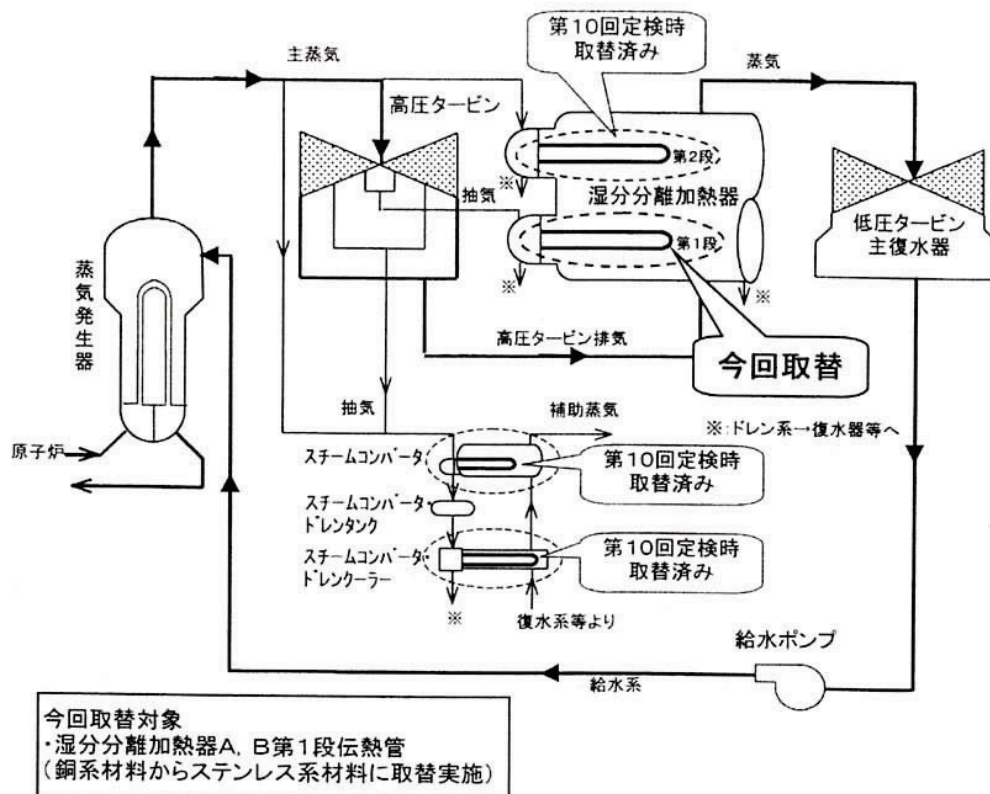
5. 次回定期検査の予定

次回定期検査は平成15年秋頃を予定している。

以 上

<添付資料>

湿分分離加熱器伝熱管取替工事



湿分分離加熱器構造図

